

日本河川・流域再生ネットワーク <http://www.a-rr.net/jp/>  <https://www.facebook.com/JapanRRN>

「日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。

目次	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ	1
➤ 会員寄稿記事	4
➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ	13
➤ 会議・イベント案内 & 書籍等の紹介	14

JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

小さな自然再生普及プロジェクトー『第6回「小さな自然再生」現地研修会 in 福井・日野川/志津川 (10月17日)』開催案内 ～参加申込受付中 (10/10〆切)～

今年度初回となります「小さな自然再生」現地研修会を、2017年10月17日(火)に福井県福井市内の九頭竜川流域にて開催致します。

本研修会は、「九頭竜川流域の連続性確保に向けて」を主テーマに、午前の座学、及び午後の日野川・志津川への視察とワークショップで構成しています。

本研修会の参加申込みは、以下の JRRN ホームページをご覧ください。(10/10 火 申込〆切)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/info/810.html>

なお、本活動は(公財)河川財団の河川基金の助成を受けて実施しています。

(JRRN 事務局・和田彰)

第6回「小さな自然再生」現地研修会 福井県・日野川/志津川

- 日時： 2017年10月17日(火) 9:30～17:00 (受付開始：9:10～)
- 主催/共催： 「小さな自然再生」研究会/国土交通省近畿地方整備局福井河川国道事務所、福井県、JRRN
- 会場： 福井県福井市 <座学：(一財)福井県教育センター 4階 大ホール / 現地：日野川・志津川>
- 参加費： 無料
- プログラム：
 - (午前) 会議室にて「小さな自然再生」に関する座学研修
 - 小さな自然再生のすすめ (三橋弘宗：兵庫県立大学 自然・環境科学研究所)
 - 事例紹介『川人を繋ぎ育む小わざ魚道』(浜野龍夫：徳島大学大学院)
 - 事例紹介『竹蛇籠で魚道を作ってみた：住民モニタリングと遡上効果』(山下慎吾：Sakanayama Lab./高知工科大学)
 - 地元の取組み紹介『天王川における連続性確保に向けた魚道整備』(福井県)
 - 地元の取組み紹介『九頭竜川流域における自然再生の現状と課題』(福井河川国道事務所)
 - (午後1) 日野川・志津川現地研修 (貸切バスにて移動後、約2.5kmを徒歩にて視察します。)
 - (午後2) ワークショップ「魚類の遡上環境の改善 ～九頭竜川流域の連続性確保に向けて～(仮題)」
 - ファシリテーター：三橋弘宗：兵庫県立大学 自然・環境科学研究所
 - グループ討議： 「小さな自然再生」研究会メンバーや座学講師を交え、参加者でアイデア出し討議
 - 全体討議： 各グループのアイデアを共有しながら連続性確保に向けてできることについて討議

JRRN 事務局からのお知らせ (2) JRRN Activity Report

ARRN (アジア河川・流域再生ネットワーク) – 「第1回アジア国際水週間」参加速報

2017年9月22日(金)、韓国のキョンジュ(慶州)にて開催された第1回アジア国際水週間(1st AIWW)において、アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)が主催する「アジアの水問題—気候変動と河川再生」をテーマとしたセッションが行われ、JRRN事務局より土屋と光橋が参加しました。



第1回アジア国際水週間開会セレモニー

このセッションでは、ARRN 前会長である Jang 先生による司会進行のもと、日本、中国、韓国のほか、ARRN への参加を希望しているモンゴルを加えた6件の話題提供があり、続いて意見交換が行われました。

第1回アジア国際水週間

ARRN セッション「気候変動と河川再生」概要

- (1)日時：2017年9月22日(金) 13:00-15:00
- (2)場所：Hwabaek International Convention Center (HICO), 韓国, キョンジュ(慶州)
- (3)主催：アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)
- (4)テーマ：アジアの水問題—気候変動と河川再生
- (5)プログラム
 - 司会：Suk-Hwan Jang 教授
(ARRN 前会長/KRRN/Daejin 大学)
 - 話題提供：日本、中国、韓国、モンゴルより6件
 - 意見交換：

話題提供では、CRRN(中国)から「中国各地の都市河川再生の模索(Xiuying Wang 教授, 中国水利水電科学研究院)」「水生植物の生育する開水路におけるマニングの粗度係数の実験的研究(Xiaosong Wang 教授, 中国水利水電科学研究院)」、KRRN(韓国)から

「Nakdong 川(洛東江)河口の統合水管理計画(Byeong Woo Park 氏, 韓国水資源公社 K-water)」「韓国 Han 川(漢江)の感潮帯での半日周潮に関連する生態学的課題(Chang Geun Song 准教授, インチョン大学)」、モンゴルから「Kharaa 川流域の統合水管理計画(Dorjgotov Battogtokh 博士, モンゴル科学院)」、そして JRRN からは「気候変動下における日本の河川再生(土屋信行 JRRN 代表)」の計6件の発表がありました。

意見交換では、アジアモンスーン地域において気候変動と河川再生に取り組む上で、①順応的な PDCA サイクルをつくり動かしていくことが不確実性への対応に不可欠であること、②そのためには各国の知見や経験を共有することが重要であること、の共通認識が得られました。



土屋信行 JRRN 代表による発表



終了後の記念撮影

(JRRN 事務局・澤田みつ子)

小さな自然再生普及プロジェクト—今年度活動の進捗報告と今後の予定について



ELR2017 名古屋での企画会議 (9月23日@名古屋)

JRRN ニュースレター2017年8月号でご紹介しました今年度実施中の「小さな自然再生」普及プロジェクトについて、最新の活動進捗や今後の予定等を皆様にご紹介させていただきます。

本活動は、「小さな自然再生」研究会に所属する全国の有志メンバーで取り組んでおりますが、9月中旬に名古屋で開催された「ELR2017」に多くのメンバーが集ったため、今年度の現地研修会企画や今後の活動の方向性等について意見を交わしました。

企画会議では河川基金助成事業として今年度3回の開催を予定している「小さな自然再生」現地研修会(福井&岡山&秋田)の諸準備、また小さな自然再生の更なる普及促進に向けたコンセプトムービー制作について議論しました。また、来年度の活動企画や現地研修会ワークショップの進め方に関わるアイデアを交換するとともに、各メンバーが関わる「小さな自然再生」の活動や行事等の情報を共有しました。以下にその一部を紹介させていただきます。

【1】第7回「小さな自然再生」現地研修会 in 岡山

今年度の2回目となる第7回「小さな自然再生」現地研修会は、岡山県の吉井川水系をフィールドに、本年12月上旬頃の開催を予定しております。

本研修会は、吉井川流域の連続性の向上を主テーマに、河口部から源流域までを視察するとともに、岡山県西粟倉村において自然資源の持続的利用を通じた地域づくりに取り組むエーゼロ(株)の活動拠点を会場に、参加者とともに座学やワークショップで「小さな自然再生」の理解を深めるプログラムを予定しています。



岡山県西粟倉村周辺の河川の様子

10月中には本研修会の参加者募集を開始する予定ですので、ご興味のある方は是非ともご参加下さい。

【2】第8回「小さな自然再生」現地研修会 in 秋田

当初10月2日(月)に開催を予定しておりました秋田県・雄物川水系での現地研修会ですが、本年の度重なる秋田豪雨被害を受け、来年1月頃に開催を延期することになりました。異常気象に伴う豪雨災害が頻発する状況において、治水と環境のあり方、中でも「小さな自然再生」が自然環境のみならず地域づくりに果たす意義などについても本研修会を通じて学び合えればと思います。

【3】「小さな自然再生」コンセプトムービー制作

小さな自然再生の考え方や事例を判り易く紹介したショートムービー(ミニ動画)の制作を予定しております。限られた予算とマンパワーではありますが、「これなら自分達もできそうだな。よし、まずはやってみよう!」と次なる行動を後押しするような動画制作を目指して参りますのでご期待下さい。なお、動画制作にボランティアでご協力頂ける方がいらっしゃればJRRN事務局までお声をお掛け下さい。

【4】来年度の活動企画

来年度は、本活動の契機となりました「小さな自然再生」事例集の制作から5年目の節目を迎えます。「小さな自然再生」研究会では、更なる5年先を見据えた中で、これまでの小さな自然再生に関わる諸活動をレビューし、全国で増えてきた事例を普及しながら、小さな自然再生の担い手を増やし技術を高めることに貢献する一年にしたいと考えております。「小さな自然再生」の普及促進に向けたアイデアなど、皆様からのご意見もお待ちしております。

(JRRN 事務局・和田彰)

JRRN 会員寄稿 (1) JRRN Member Contribution

第2回「魅力ある水辺空間の再生を目指して！」シンポジウム開催報告

寄稿者：鶴田舞（国立研究開発法人土木研究所水環境研究グループ河川生態チーム・JRRN 会員）

平成 29 年 7 月 25 日、東京・新橋のヤクルトホールにおいて、第 2 回水辺空間シンポジウム「魅力ある水辺空間の再生を目指して！～多自然川づくり、これからの軌道～」が国立研究開発法人土木研究所（土研）の主催により開催されましたので報告いたします。

本シンポジウムは、土研の研究成果及び公益社団法人全国土木コンクリートブロック協会（共催）との共同研究の成果を発信するとともに、6 月に提言された「持続性ある実践的多自然川づくりに向けて」（河川法改正 20 周年多自然川づくり推進委員会）を受け、今後の多自然川づくりが進むべき方向性を議論すること、魅力ある水辺空間を再生する上での課題と解決策を明確にすることを目的として開催されたものです。

シンポジウムでは、前半に基調講演、研究・事例発表等、後半にパネルディスカッションが行われました。

基調講演では、熊本大学星野准教授より、熊本の 3 つの事例（坪井川、白川・緑の区間、白川・激特事業）を通じた、使い手にとって居心地のよい水辺デザインの考え方に



会場の様子



パネルディスカッション

シンポジウム前半の構成

(提言説明、基調講演、研究・事例発表)

- ①国土交通省水管理保全局河川環境課 田中孝幸課長補佐
「持続性ある実践的多自然川づくりに向けて」の概要説明
⇒ 最新の背景説明
- ②熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター 星野裕可准教授
「風景デザインから見た水辺空間の可能性」
⇒ どちらかと言えば拠点以外を意識した水辺空間のデザイン
- ③(国研) 土木研究所河川生態チーム 鶴田舞主任研究員
「水辺拠点整備の考え方」
⇒ 水辺拠点の抽出方法、水辺拠点の空間整備の考え方
- ④九州大学大学院環境社会部門 林博徳助教
「上西郷川における川づくり」
⇒ 水辺拠点以外? における空間整備の考え方とその手法
- ⑤(公社) 全国土木コンクリートブロック協会 尾崎正樹氏
「河川護岸ブロックのテクスチャーについて」
⇒ 護岸ブロックの景観評価手法と今後の活用・方向の可能性

ついて紹介いただきました。研究発表に続き、九州大学林助教から上西郷川における川づくり（2016 年土木学会デザイン賞最優秀賞）の話題提供をいただきました。

土研の萱場上席研究員がコーディネーターを務めたパネルディスカッションでは、水辺空間デザイナー 4 名が一堂に会し、水辺拠点の選定・整備方法、拠点以外の都市河川における整備方法、護岸ブロックの活用・開発の方向性等について、研究発表に対するコメントや活発な議論が行われました。当日は、河川管理者、技術者、研究者など全国各地から約 340 名の参加があり、議論の内容や今後の方向性を共有することができました。同日行なったアンケートでは、「内容が分かりやすく、資料も充実していて

大変参考になった」、「発表とパネルディスカッションの一体感、連続性が素晴らしかった」等の感想や「維持管理をどうすべきかのテーマでの話が聞きたい」、「今後も（シンポジウムの）継続をお願いしたい」等の意見を頂きました。

シンポジウム及びアンケートにて頂いたご意見を参考にしながら、今後の研究、次回のシンポジウムの企画を考えていきたいと思っております。講演資料及び講演録を HP で公開しています。ぜひご覧下さい。

http://www.pwri.go.jp/team/kyousei/jpn/events/m5_h29_02.htm

パネルディスカッションの構成と論点

パネリスト 阿田一天 (株)プランニングネットワーク
宮村伸一 (株)宮村伸一建築計画室
星野裕可 熊本大学
林 博徳 九州大学 敬称略

- 論点 1 拠点の選定・整備アプローチについて
・拠点抽出・拠点整備アプローチに対するコメント（星野先生、阿田さん）
・拠点における空間デザインの原則と課題等
- 論点 2 拠点以外の都市河川における整備手法について
・上西郷川における整備点（林先生より）
・都市河川においてスペースを生み出すテクニック（吉村さん）
・都市河川における河川整備の課題等
- 論点 3 護岸ブロックの活用・開発の方向性
・テクスチャーのような評価方法の意義と今後の進め方（星野先生、阿田さん）
・今後の開発の動向と活用範囲の拡張（林先生、吉村さん）
- 論点 4 多自然川づくりポイントブック改定に際して盛り込むべき内容

長崎県東彼杵町「水辺からのまちおこしプロジェクト」現地訪問 2017 報告

寄稿者：筑波大学白川（直）研究室

1. はじめに

筑波大学白川（直）研究室は、2017年8月18日から21日にかけて、長崎県東彼杵郡東彼杵町を訪問した。昨年と同様、今回も彼杵おもしろ河川団（図1）の活動の一環で、ADS（アユ・ドジョウ・シジミ）班が主導する活動と、水辺の記録班が主導する活動を実施した。ADS班は串川でのアユの遡上実験、およびドジョウの養殖状況の確認を中心に活動を行った。水辺の記録班は、昨年行った「水辺の記憶」のヒアリング結果をもとに、昔の川や水辺との関わりを再現した映像撮影を中心に活動した。また今回の訪問では、東彼杵町内を通る長崎新幹線のトンネル工事に本学卒業生の方が関わっているという縁もあり、交流の場をもたせてもらった。本稿では、各班の活動内容を報告する。各班の現地訪問の行程は表1、各班の活動場所は図2に示した。



図2 各班の活動拠点



図3 役場表敬訪問

表1 現地訪問の行程

日時	主な活動内容
8/18 午後	現地入り, 町役場訪問
8/19 午前	串川遡上実験, トンネル見学
8/19 午後	川まつり準備, ドジョウ養殖場視察
8/20 午前	川まつり運営手伝い
8/20 午後	映像撮影
8/21 午前	串川遡上実験

2. 1日目(8/18) 役場訪問

午後2時頃に佐賀空港に到着し、佐賀駅で荷物を受け取ったのち東彼杵町役場へ向かった。役場には午後4時半頃に到着し、応接室にて挨拶などを行った(図3)。まちづくり課の松山昭課長に東彼杵町の現状や、人口減少にどう対処するか、豪雨災害への対策などを説明していただいた。その後役場の方々に応援の言葉を頂いた。

3. 2日目(8/19)

3.1 串川での遡上実験装置の設置(ADS班)

串川に生息する魚類が、堰があるために川を遡上できないという問題を解決するため、開発中の傾斜板を設置し、川の下流にいる魚が傾斜板を利用することによって上流に遡上することができるか検証する実験を行った。実験の期間は8月19日午前10時から8月20日午前9時とした。放流した魚はカワムツ、オイカワ、フナ、アユで、傾斜板の下流には網を設置し、実験対象の魚が逃げ出さないようにした(図4, 図5, 図6)。



図1 彼杵おもしろ河川団構成図(2017年8月改正)

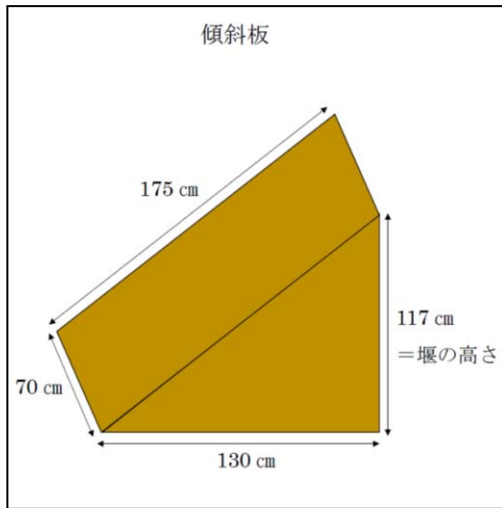


図4 実験装置詳細

表1 ドジョウ計測データ

体長 (mm)	匹数
30	5
35	8
40	12
45	5
50	1
80	2
100	1

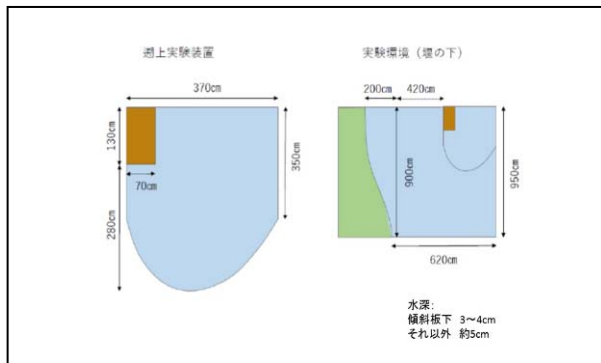


図5 実験装置詳細



図7 ドジョウ捕獲の様子



図6 実験装置設置の様子

3.2 ドジョウ養殖場視察 (ADS 班)

ドジョウの調査のために林氏の休耕田を活用した養殖池を訪問した。林氏の養殖池では2016年4月20日に約2cmのドジョウ稚魚を2,500匹放流し、2017年5月19日にドジョウ稚魚を500匹放流し、本調査ではそれらのドジョウがどれほど成長したかを調べた。

調査当日、計34匹のドジョウを捕獲し、体長を計

測した。計測したデータが表2である。体長は5mm刻みで集計したものである。また、作業時の写真が図7である。

表2から分かる通り、個体差はあるものの放流した時点と比べて成長していることが分かる。後日、林様よりドジョウを島根より調達していることを教えていただいた。今後のADS班の活動で数多くのドジョウが必要となったときには参考にさせて頂きたい。

3.3 映像撮影場所視察 (水辺の記録班)

水辺の記録班は、かっぱ公園で川まつりの準備の手伝いを行った。まつりに使う機材の運び込み、かっぱ公園横の堤防上へのぼりを立てるなどの作業が主な内容である。作業終了後は、水辺との関わりの再現映像を撮影するための撮影場所の視察をした。千綿小学校、四ツ池、竜頭泉の3か所を見て回り、どこでどのような映像を撮るか打ち合わせをした。

また、筑波大学OBの中村氏が働いている職場の見学も行った。仕事の紹介をしていただいた後に、実際にトンネル工事の現場を見学した。

4. 3日目 (8/20)

4.1 串川実験装置の検証 (ADS班)

ADS班の遡上実験では、設置した実験装置 (図8) の効果の検証を行った。方法は、傾斜板より上に設置した定置網の中に魚が入っているか、堰の上にはみ跡が観察できるかによって判断した。この日は、傾斜板を遡上した魚は確認できなかったため、土木研究所の方のご指導も仰ぎ、傾斜板を流れる水の流速、水深や生け簀の中の水の流れを再調整するとともに、定置網と傾斜板の逃げ出し対策を強化した。カワムツ、オイカワ、ハゼの仲間、アユを放した。



図8 実験装置の傾斜板

4.2 川まつり運営 (水辺の記録班)

水辺の記録班では、彼杵川のかっぱ公園で実施された川まつりの運営の手伝いを行った。主に小学生までの小さな子どもたちを対象にしたカヌー体験 (図9) は、班員が漕ぐカヌーに子どもたちを乗せるという形で行われ、大変な盛況ぶりだった。他にも、子どもたちが対象のたらい舟競走や水鉄砲を使った的当て (図10) が行われ、それらイベントの手伝いも行った。もともと水辺の記録班の人員は、川まつりの準備と運営の手伝いの人員として、現地から要請されていたこともあり、役割を果たすことができた。

まつりが行われている間、参加していた地元の方を対象に昨年からの継続となる、「水辺の記憶」のヒアリング、そして映像の撮影も行った。

川まつり終了後には川辺で流しそうめんも行われ、参加した地元の方だけでなく、白川研究室のメンバーも参加させてもらった。参加した多くのメンバーが、地元の方と交流ができ、大変有意義な時間であった。



図9 カヌー体験の様子



図10 水鉄砲射的の様子

4.3 町内河川での川釣り

川まつりの撤収を手伝った後、私たち白川研は三つの班に分かれて行動した。花島と饒平名、前田は東彼杵東町区長である田中氏のご好意により彼杵川の上流に連れて行ってもらい川釣りをさせていただくことになった。川釣りのための道具もわざわざ用意してくださった。

現場のようすから分かる通り、川の水が澄んでいたので、川の中にいる魚を目視することが容易であった。実際に川の中にいる魚に日の光が反射して輝いていた。目を凝らしてみても非常に多くの魚がいることも確認することができた。

最初は、釣りが上手いかなかったが、田中さんが仕掛けのつけ方を私たちに丁寧に教えてくださった他、助言と一緒に試行錯誤していただき勉強になった。釣りを一緒にする中で東彼杵に限らず、他の地域(主に北海道)の自然のことについて伺い知ることができた。

結局釣りでは、ハヤ (図11) を獲ることができた。小指ほどのサイズで仕掛けによく食いついてきた。



図 11 釣ったハヤ

田中さんによると時期的な問題、地理的な問題から大きな川魚は流れがある場所、より上流域に近づかなければ難しいとのこと。手持ちの装備では心もとないのでそうした場所は見送ることになった。私自身川でこのような体験をすることがなかったので非常に有意義な時間を過ごすことができた。

4.4 大村湾から見る東彼杵町の映像撮影

川まつり片付け終了後、カヌー2艘でかっぱ公園から彼杵川を下流へと下り、大村湾に出て千綿の港まで往復した。昨年の現地訪問時に行った、大村湾上から東彼杵の町を撮影する企画の続きである。このときは現地の方々からの話でも聞いていたとおり、10日以上にわたって降水がなかった影響で、川の水が少なく彼杵川では河口に至るまでほとんどカヌーを漕ぐことができなかった。水深の浅いところ、またところどころ川の中に設置されている飛び石を越える箇所では、カヌーを持ち上げて運ぶことを強いられ、体力を消耗した。

大村湾に出てからは、岸から離れすぎないようにすることを心がけて進んだが、海とは思えないほど波が穏やかだったのが印象的であった。炎天下の午後であったことに加え、天気が悪く気温も上がらない、この夏の関東の気候に体が慣れていたこともあり、非常に過酷な環境の中での活動であった。しかし、海から見るといって、普段とは違った表情の東彼



図 12 海からの風景



図 13 カヌーを漕ぐ様子

杵の町(図 12, 図 13)を見ることができ、満足度が高かった。昨年撮影した写真とつなげて、東彼杵のもう一つの側面の全体像をぜひとも見てみたい。

5. 4日目(8/21) 串川遡上実験

8時頃に出発し、串川にて前日設置した傾斜装置による遡上数の確認を行った(図 14)。堰の上に設置した定置網の中にはヨシノボリが2匹、カニが2匹確認できたが、他の多くは傾斜板の下にとどまったままであった。下に残っていた魚は、オイカワが3匹、カワムツが34匹、ヨシノボリが7匹であった。実験開始前に50匹だった魚が46匹に減少していたため、他の4匹は隙間から逃げたと推測される。最後に傾斜板や定置網、囲いを撤去し、片付けをしながら各班に分かれて解散した。撤去の際には、傾斜板の内部構造や固定方法を知ることができた。



図 14 遡上数の計測の様子

表 3 遡上数結果

魚種	実験前 (匹)	実験後 (匹)	
		堰の下	堰の上
オイカワ	3	3	
カワムツ	37	34	
ヨシノボリ類	10	7	2
(カニ)			(2)
計	50	44	2

6. おわりに

今回の訪問にあたり、東彼杵町まちづくり課の皆様、東彼杵町議会の皆様、東彼杵清流会の池田健一さん、県北グリーンクラブの宮川弘さん、聖流庵の永富さんご夫妻、里郷、八反田郷、中岳郷、大音琴郷をはじめとしその他町内外の多くの方々にご協力をいただきました。ここに記して感謝を申し上げます。

(筑波大学白川研究室 (訪問者) :

岸田まりな・南波祐生・藤原誠士・上田純祐・田川未来也・仲田英人・肥田野美琴・前田紗希・饒平名青空・堤陽星・花島綺一・讃井知・白川直樹)



10月



撮影：2017年9月（秋田県 横手市 横手川左岸）



あの日のあの川 リレー日記 ～第33話～



あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第33話主人公 今泉 光華

（筑波大学 社会・国際学群 国際総合学類4年 白川（直）研究室『川と人』ゼミ）

（■川ガール・□川系男子）

（出身地を流れる川：秋田県横手川）

「横手川を下って」

いつのこと？：小学校5年生の頃

どこの川？：横手川

私の小学校では、五年生になると学年全員で川下りをします。たくさんのペットボトルを束ねていかだを作り、それに乗って横手川を下ります。4人ずつの班に分かれ、同級生と力を合わせていかだを作りました。4人乗りのいかだを作るために、材料のペットボトルを集めるだけで数ヶ月かかりました。それからガムテープやひもなどを使ってペットボトルを束ねていきます。地道な作業でも、このいかだに乗って川下りをするところを想像すると胸が弾みました。プールでの試運転では、期待と不安の入り交じった思いでいかだを浮かべました。班員全員が乗るまではよかったのですが、やがてひもが緩んだのか、ペットボトルが水面に散らばりだしました。あわててペットボトルを拾い集めプールサイドにあがったときには、みんな体育着をびしょびしょに濡らしていました。しかし、いかだがばらばらになっても、みんなずっと笑っていました。友達と力を合わせていかだを作り、プールに浮かべ、失敗する。そのすべてが初めての経験で、みんな楽しくて仕方がなかったのだと思います。

11月、いよいよいかだを川に浮かべる日がやってきました。同級生たちはめいめいに下流へ

と漕ぎ出していきます。私の班も、ひんやりとした水に足を浸し、みんなでいかだを押ししました。そして一人、また一人といかだに乗り込みます。最後に私が乗ると、いかだは一瞬沈み込んだものの、次の瞬間には水流に乗って川を下り始めました。初めての川下りはなんとも不思議な心地がしました。川から見ると、見慣れているはずの街並みがまるで違った風景に見えます。毎日学校へと渡る橋を、今は見上げながら潜り抜けていきます。私は晩秋の寒さも忘れて見入っていました。学校と家と習い事だけだった自分の世界が少し広がったように思えました。

中学生になると、横手川に面した図書館が私の憩いの場所になりました。特に、窓際の席で川のせせらぎを聞きながら読書をするのが好きでした。そうすると本の世界にずっと入っていくことができ、気のすむまで読みふけることができました。

高校生になって通学路が変わっても、くさくさした気分の時には川に足を運ぶようになりました。高校3年生のとき、毎日の受験勉強の疲れから川沿いをひたすら自転車で走ったことを覚えています。自転車をこぎながらひたひたと流れる川面を見ていると、自然と気持ちが和らいでいくのがわかりました。

大学進学のために家を離れてからは、川を目にすること自体が減っていきました。私の住む学生宿舎付近には川がないからです。日々の中でふと感じる物足りなさや寂しさは、初めての一人暮らしのせいだけではないかもしれません。

私にとって川は身近にありながら現実を忘れさせてくれる存在でした。川を眺めることでいったん肩の荷を下ろし、日常を忘れることで、また現実に向き合うことができたのだと思います。

私は来年の春に大学を卒業し、新しい土地で働くこととなります。これから先転勤を繰り返していくこととなりますが、また川の近くに住むことができたらと思います。新しい環境や仕事に疲れた時、ふと川に立ち寄ることができたら、また明日から頑張れそうな気がします。



撮影：2017年（秋田県横手市横手川）

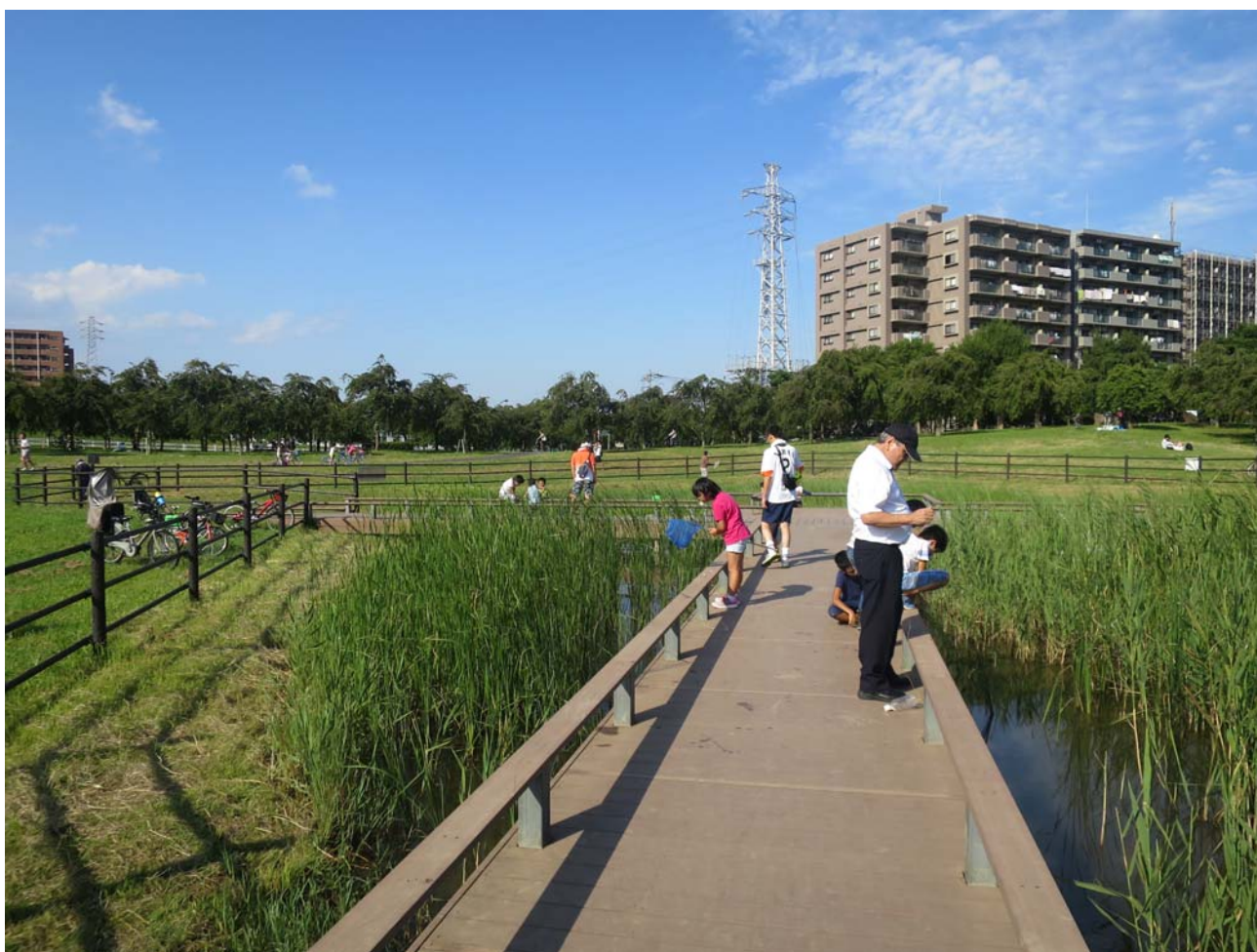
今回をもちまして、「あの日のあの川 リレー日記」は隔月での連載となります。
(次号は12月号にて田川さんにバトンを託します)

水辺からのメッセージ No.101

岡村幸二 (JRRN 会員)

ザリガニを捕まえよう：

工場跡地に生まれた湿性池 水辺で何がみつかるかな



撮影：2017年9月（東京都荒川区・都立尾久の原公園）

◆隅田川の河川環境改善の一環で

隅田川の水質は昭和40年代に最悪となり、伝統の花火大会も17年にわたり中止されました。そのためもあって沿川工場の移転が促進され、荒川区でも工場跡地に湿性池と原っぱの広がる公園ができました。

◆原っぱとトンボ池が公園の主役

湿性池の水源は工業用水の導水以外は、園内に降った雨水に頼っているため、季節により水位が大きく変動します。生物多様性を重視した湿性池にはコサギ、アオサギ、カワセミなどがやってきます。

■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。(JRRN 事務局)

【JRRN 会員からの提供情報】

■ 第15回 川の自然再生セミナー (10/19 開催)

公益財団法人リバーフロント研究所より、本年の「川の自然再生セミナー」のご案内です。



■日時: 2017年10月19日(木)
13:00~17:25

■場所: 月島社会教育会館 4階ホール (中央区月島4-1-1)

■参加費: 無料

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2897.html>

【JRRN 会員からの提供情報】

■ 第20回河川生態学術研究発表会 (11/20 開催)

公益財団法人リバーフロント研究所より「第20回河川生態学術研究発表会」のご案内です。



■日時: 2017年11月20日(月)
10:30~17:00

■場所: 浜離宮朝日ホール 小ホール (東京都中央区)

■参加費: 無料

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2879.html>

【JRRN 会員からの提供情報】

■ 「魚を増やそうシンポジウム (10/14 開催)

比企川の川づくり協議会より埼玉県嵐山町で開催される「魚を増やそうシンポジウム」のご案内です。



■日時: 2017年10月14日(土)
10:00~14:30

■場所: 国立女性教育会館(埼玉県嵐山町菅谷)

■参加費: 無料

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2893.html>

【JRRN 会員からの提供情報】

■ 第31回筑後川フェスティバル in 福岡 (10/14-15 開催)

古賀河川図書館より、福岡で開催される「第31回筑後川フェスティバル」のご案内です。



■日時: 2017年10月14日(土)~15日(日)

■場所: 福岡市役所西側 ふれあい広場 (福岡県福岡市)

■参加費: 無料

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2882.html>

【JRRN 会員からの提供情報】

■ 応用生態工学会 第16回北信越ワークショップ in 石川「流域の連続性の回復～小さな自然再生から流域の地域再生を目指して～」 (10/20-21 開催)

応用生態工学会金沢より北信越ワークショップ in 石川のご案内です。



■日時: 2017年10月21日(土)~22日(日)

■場所: IT ビジネスプラザ武蔵 (石川県金沢市武蔵町14番31号)

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2888.html>

【海外からの提供情報】

■ 「RRC (英国河川再生センター) 最新ニュースレター」ご紹介

RRC (英国河川再生センター) の最新会報 (2017年9月号) が事務局より届きました。

本号では、RRC 主催の現地研修行事案内、RRC 河川功労賞 (River Champions) 受賞者等が掲載されています。



◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2902.html>

(国内の河川・流域再生に関する主なイベント)

※前頁でご案内した行事は本欄では掲載していません。

■第6回全国禹王サミット in 富士川

- 日時：2017年10月7日(土)～8日(日)
- 主催：富士川改修促進期成同盟会
- 場所：富士川町ますほ文化ホール(山梨県富士川町)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2657.html>

■石井樋400年祭シンポジウム2017

- 日時：2017年10月8日(日) 13:00-16:30
- 主催：NPO 法人嘉瀬川交流軸
- 場所：佐賀市文化会館(佐賀県佐賀市)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2639.html>

■第17回川に学体験活動全国大会 in 北九州

- 日時：2017年10月14日(土)～15日(日)
- 主催：川に学ぶ体験活動協議会
- 場所：北九州市芸術劇場ほか(福岡県北九州市)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2586.html>

■琵琶湖外来魚駆除大会

- 日時：2017年10月15日(日) 10:00-15:00
- 主催：琵琶湖を戻す会
- 場所：草津市津田江1-北 湖岸緑地(滋賀県草津市)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2651.html>

■河川環境保全を力学的視点から考える集い

- 日時：2017年10月27日(金) 13:00-15:10
- 主催：応用力学委員会
- 場所：京都大学桂キャンパス(京都市西京区)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2670.html>

■第22回水シンポジウム2017in おきなわ

- 日時：2017年10月31日 9:30～17:10
- 主催：水シンポおきなわ実行委員会
- 場所：タイムスホール(沖縄県那覇市)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2646.html>

■第17回世界湖沼会議(いばらき霞ヶ浦2018)プレ会議

- 日時：2017年11月1日(水) 13:30～17:00
- 主催：茨城県
- 場所：つくば国際会議場 多目的ホール(茨城県つくば市)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2666.html>

■ダム貯水池の水環境に関する現状と将来(第2回) in 松江

- 日時：2017年11月7日(火) 13:30～17:30
- 主催：応用生態工学会 広島
- 場所：松江テルサ 大会議室(島根県松江市)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2663.html>

書籍等の紹介

Publications

■水辺の小さな自然再生～あなたもはじめてみませんか？(2017.3発行)

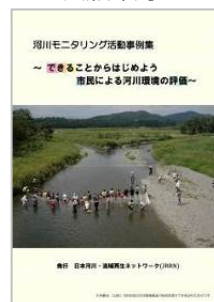
- ・発行：「小さな自然再生」研究会/日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)
- ・発行年月：2017年3月
- ・ページ数：16ページ



水辺でできる小さな自然再生の更なる普及促進を目的に、小さな自然再生の概要や取組む際の留意点、また「小さな自然再生」研究会による普及促進活動を紹介した簡易冊子です。

■河川モニタリング活動事例集～できることからはじめよう 市民による河川環境の評価～(2014.3発刊)

- ・監修：白川直樹 筑波大学准教授(JRRN 理事)
- ・執筆協力：河川再生に携わる市民団体や行政機関
- ・編集：JRRN 事務局、筑波大学白川(直)研究室
- ・発行：日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)
- ・出版年月：2014年3月



市民が主体的に取組む河川環境のモニタリング活動の実態を調べ、各地のモニタリング活動事例や市民による河川モニタリング活動の更なる活性化に向けたヒントを紹介しています。

■上記冊子の「印刷製本版」入手方法

※PDF版はこちらから：<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/>

JRRN 事務局までご連絡ください。送料のみご負担頂いた上で、無料で提供致します。(JRRN 会員限定)

JRRN 会員募集中 JRRN membership

■ JRRN の登録資格 (団体・個人)

JRRN への登録は、団体・個人を問わず無料です。市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

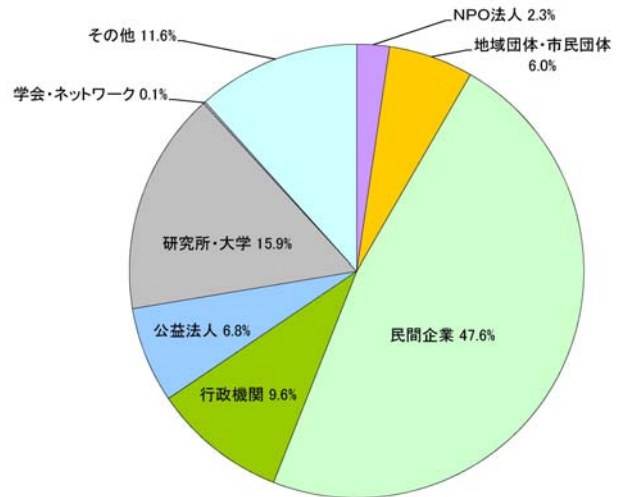
会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週1回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2017年9月30日時点の個人会員の所属構成
(個人会員数：766名、団体会員数：60団体)

※9月の新規入会数：個人会員1、団体会員0

JRRN 会員特典一覧表 (団体会員・個人会員)

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員 (一般)
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局



〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 NMF 茅場町ビル7階 (公財)リバーフロント研究所 内

Tel:03-6228-3865 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net

URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>

JRRN 事務局は、「アジアにおける河川再生のためのネットワーク構築と活用に関する研究」の一環として、公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。

